

第2次生物多様性ふなばし戦略行動計画の概要

1. 戦略の進行管理における現状の課題

現行の生物多様性ふなばし戦略においては、具体的な市の取組み(個別施策)及び戦略管理指標が全て掲載されていることから、取組みの追加や指標の数値の変更等の柔軟な対応が困難であることが課題となっています。

2. 課題の解決について

第2次生物多様性ふなばし戦略(以下、戦略という。)においては、具体的な個別施策及び戦略管理指標については行動計画にて示すこととし、状況に応じて柔軟に対応していくものとします。

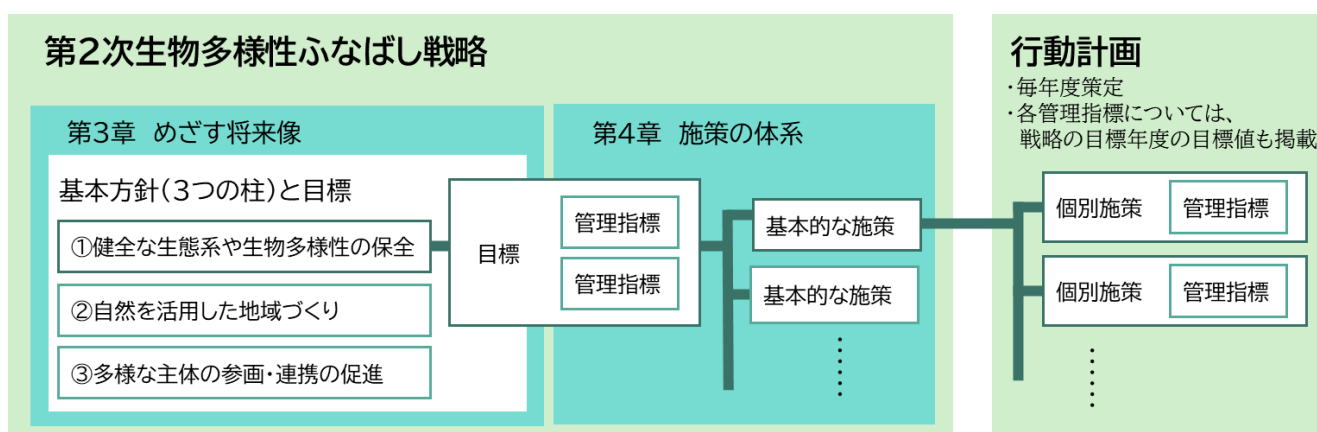
行動計画は年度ごとに策定するものとし、年度ごとの取組状況等については、年次報告書にまとめ、取組状況等に応じて次年度の行動計画を見直すものとします。

このように対応することで、他の関連計画の最新の状況や生物多様性を取り巻く社会情勢に応じた新たな施策を組み入れるなどの対応が可能となります。

3. 戦略と行動計画の関係

戦略では3つの基本方針とそれぞれの基本的な施策を定めます。また、3つの基本方針の目標達成状況を確認するための管理指標を戦略にて定めます。なお、リーディングプロジェクトにおいては、具体的な取り組みと管理指標を戦略にて定める予定です。

行動計画においては、基本的な施策に基づき、具体的な個別施策と管理指標を整理し、まとめます。



なお、個別施策については、戦略目標年度(令和18年度)時点で目指すべき取り組み内容と行動計画対象年度に実施予定の取り組み内容を明らかにします。管理指標については、行動計画対象前年度の実績見込みを示すとともに、行動計画対象年度の目標数値、戦略の目標年度(令和18年度)の目標数値を明らかにします。